

第24回 奈良県保健研究センター及び奈良県景観・環境総合センター 研究発表会 要旨

①高塩分食品に対するテトロドトキシン分析法の妥当性確認について

保健研究センター 食品担当 東 麻里

高塩分食品については、当該食品中に含まれる塩分がテトロドトキシンの機器分析に及ぼす影響が懸念されており、令和2年度厚生労働科学研究事業では本食品に適した前処理法が検討された。当センターの分析法では高塩分食品への影響は未検証であったため、今回、高塩分食品に対する妥当性を検討したので結果を報告する。

②PCR法による *Campylobacter jejuni* の血清型別法の検討について

保健研究センター 細菌担当 佐伯 美由紀

Campylobacter jejuni は県内の細菌性食中毒の主要原因菌である。当センターでは、感染経路や原因食品の追求を目的に、受身血球凝集反応法を用いたPenner法による血清型別を実施してきたが、型別率の低さが課題であった。そこで、従来法より高い型別率が報告されている、血清型関連遺伝子をPCRで検出する遺伝子型別法（Penner PCR法）について、当所保存株を用いて検討したので報告する。

③奈良県における急性呼吸器感染症（ARI）サーベイランスについて

保健研究センター ウイルス・疫学情報担当 松井 恵梨子

2025年4月7日から急性呼吸器感染症（ARI）が5類感染症の定点サーベイランスの対象となり、原因となりうるウイルスについて検査が求められるようになった。当センターにおいては、奈良市を除く県内3つの病原体定点医療機関で採取された検体を、リアルタイムPCRを用い、12種類のウイルスについて検査を行っている。今回、12月までに搬入された計432検体について結果の解析を行い、県内の感染状況についてまとめたので報告する。

④奈良県におけるPM_{2.5}中の二次有機エアロゾル形成に対する人為汚染物質の影響評価

景観・環境総合センター 大気係 村上 友規

WHOのPM_{2.5}目標値の引き下げにより、国際的に環境基準の見直しが進んでいる。近年、PM_{2.5}の主成分である二次有機エアロゾル（SOA）は人為汚染の影響による濃度変動が報告されている。しかし、これらの知見は主に汚染地域に限られ、奈良県等の清浄地域での検証例は少ない。清浄地域でも同様の現象が確認されれば、人為汚染の削減がSOA低減につながる可能性がある。本研究では、奈良県におけるSOAと人為汚染の関係を検討した。

⑤奈良県における異常水質事案発生状況と令和7年富雄川青色事例について

景観・環境総合センター 水質係 井上 ゆみ子

奈良県では河川等における異常水質事案（通常の水質を著しく逸脱し、魚のへい死、悪臭、上水道障害等を起こす可能性がある状態）が年間で50件程度通報され、環境行政における重要課題として県、市町村、警察を含む関係機関が連携し対応している。今回、平成27年度から令和6年度に奈良県が把握した異常水質事案の発生状況を調査し、その特徴をまとめたので報告する。併せて令和7年6月に経験した富雄川青色事例の概要を紹介する。